

令和4年度 日本重症心身障害福祉協会永年勤続者表彰伝達式

事務室（庶務担当） 高橋智子

令和4年9月12日（月曜日）に公益社団法人日本重症心身障害福祉協会永年勤続伝達式を行いました。本表彰は、重症心身障害児者施設に通算して10年以上勤務されている方を対象とし、今年度は11名の方に表彰状及び記念品が贈呈されました。

澁谷院長が先に出席された日本重症心身障害福祉協会の定時総会及び全国施設協議会において、本表彰を受賞した施設のうち10名以上の受賞者が在籍する施設は、全国でたった数か所であるという報告があったとのことでした。

当院はその数か所のうちのひとつですが、規模も大きく、より高い専門性が必要とされる施設を、経験が長い職員が支えていることに感謝しているとお話をいただきました。

改めて事業運営に御尽力いただいていることに感謝を申し上げますとともに、皆様のますますの御活躍を期待しています。



秋の総合防災訓練

事務室 防災担当

令和4年10月25日（火曜日）に、秋の総合防災訓練を実施しました。前半は病棟での消火及び避難訓練、後半は従業員への防災教育の2部構成で行いました。

病棟における防災訓練では、地震発生後に火災が発生したという想定で、初期消火の対応と利用者の安全確保、一時避難場所までの避難誘導の対応を訓練しました。また、立ち会った消防署員からは訓練の講評のほか、センターの設備（消火栓、スプリンクラー等）の特徴や取扱方法、利用者を避難させる際の注意点等について詳しく説明していただき、知識を深めることができました。

防災教育では、府中市防災危機管理課による地震についての講話の後、屋外広場にて各部門の職員が『地震体験車』に乗り込み、震度7相当の揺れを体験しました。乗車した職員からは、想像以上の揺れの体感だった、机の下にもぐろうとしてみたが転ばないようにバーにつかまっているのが精いっぱいだった、大地震への心構えができた等の声が寄せられました。

春の総合防災訓練では水消火器による初期消火訓練を行う予定でしたが、院内感染対策中により中止となっており、今回は防災意識を高める貴重な機会となりました。

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第539号 発行日 令和4年11月30日

第31回 地域療育講習会

医療福祉相談室 清水孝子

令和4年9月30日（金）、第31地域療育講習会「親子と多職種でONE TEAM～通園における療育について～」をオンラインで開催しました。Webでの開催は4回目になります。今回配信方法をWebexからTeamsに変更したこともあり、今までの反省点を踏まえ準備をすすめてまいりましたが、音声や画像が途切れるアクシデントなど聴講者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。改めてこの場でお詫び申し上げます。

内容は、「通園の概要」「通園における遊び」「通園における摂食指導」「親子通園と家族支援」の4部構成で、小児科部長・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師が、ONE TEAMでの療育についてお話しさせていただきました。

開催のお知らせについては、従来の300件程の関係機関に加え、今回のテーマに関係する児童発達支援事業所、保育園や子ども家庭支援センターなど100件を追加しました。また、福祉保健局タイルバナーにもお知らせを掲載しました。その結果、209名の聴講希望があり、地域の皆様の当通園への関心の高さが伺えました。

さらに今回から、お申し込み方法やアンケートについては、東京共同電子申請・届出サービスを活用しました。お申し込みに聴講希望者の職種・人数等も記載いただき、正確なニーズを把握することができました。またアンケートも、たくさんの方の回答をいただくことができました。具体的には、「一日の流れや繰り返しで子どもの苦手感が減り遊べるようになること、遊びのバリエーションを知ることができた。」「遊びの内容や、それぞれの遊びの効果がわかりやすかった。」「手掴み食べと遊びがつながっているというところが参考になった。」「多職種での関わりが円滑に機能していて素晴らしいと思った。」「親子通園の重要性、有用性を再認識、教えていただいた。」「それぞれの職種からの視点で通園との関わりについて説明があり、写真も豊富でわかりやすかった。」「多職種連携、チーム力でお子さんも親御さんも支えられていることがわかった。」などがあり、配信状況が良好ではない中でも、講師の思いが聴講者の皆様に伝わったのではないかと感じました。ありがとうございました。

アンケート集計結果を当センターホームページに掲載いたしますので、お目通しいただけましたら幸いです。



秋の企画 『お化け屋敷を楽しもう!』

生活療育支援科 永野朋子

『センターのお化け屋敷を楽しもう』と銘打って、11月22日（火曜日）、24日（木曜日）に秋の企画を行いました。

多目的ホールでは「ビフォアクリスマス」。大きなクリスマスツリーが飾られた会場で、風船・紙コップ・クリスマスの球型の飾りの中から好きな材料を選び、かわいいお化けを制作しました。用意された材料を相談しながら選び、目や



髪・口などをいろいろな素材を使って作りました。時々紙芝居屋さんも登場し「おばけなんてないさ」の曲に合わせて楽しむこともできました。お隣の部屋は、iPadを使ってARで動き出したお化けと一緒に写真が取れるコーナー。「ナイトメアクリスマス」と絵本「おばけなんてないさ」のキャラクターを選び、一緒に遊びました。いたずらなお化けがなかなか変身してくれない場面や、「テーブルから落ちこちたー」など飛び交う会話も楽しみながら参加していただきました。

活動室5での「お化け屋敷」は日本のお化け屋敷をイメージし、怖さを追求しました。暗くした部屋に1組ずつ入り、提灯の光に誘われながら順路をたどりました。スイッチを押すと井戸の中から天井までお化けが飛び出し、赤い光に照らされ浮かび上がる怪しい影絵。スクリーンでは怖い映像やすすり泣きや女性の叫び声…通り過ぎてからも気になる場所でした。紐を引っ張ると目玉おやじが登場し、椅子の女性を振り向かせると現れたのはのっぺらぼう。勇気を出してアロマの香り「魔よけのしおり」をゲットすればもう出口かとおもいきや…最後にスイッチを踏むと窓の向こうに「どくろ」がライトで照らされ、反対側には、静かにマスクをした謎の女性。

明るく楽しい場所と暗く怖い場所の演出を楽しんでいただけただけでしょうか? 制作したお化けはお持ち帰りいただいたので、今頃はクリスマスツリーのどこかに潜んでいることでしょう。



新任看護職員 臨床研修修了式・本採用伝達式

看護科（研修教育担当看護師長）斎藤真知子

令和4年度の新人看護職員9名は、全員そろって6か月間の臨床研修を修了しました。11月7日（月曜日）に部署の看護師長、代責が見守る中、修了式が執り行われ、新人看護職員は緊張した面持ちで修了証を受け取っていました。

新人看護職員教育年間プログラムについては、都立病院は通常3ヶ月間としていますが、当センターでは重症心身障害児者の理解に重点を置き、7期に分け6か月間としています。その間、教育担当者と実地指導者が中心となって、臨床研修指導計画書のもと、病棟職員全員が新人看護師の指導に携わり、支援しています。

今年度の新人看護師は、COVID-19の影響で臨地実習が十分行えないまま入職しました。そのため、昨年度より演習の時間を増やし、技術の習得に努められるよう配慮しました。また、リアリティショックを軽減するため、今年度も夜勤シャドーイングを行い、利用者さんの夜間の様子や看護業務を知る機会を設けました。現在は一人でできることも増え、夜勤の立ち回りもできるようになっています。また、利用者さん個々に寄り添う看護を実践し、笑顔を引き出す関りも増えてきて、それが自身の喜びに繋がっています。

新型コロナウイルス感染症対策として黙食・孤食等を行っているため、先輩職員との談笑の時間は限られてはいますが、病棟看護師長、教育担当者、実地指導者、病棟スタッフの温かい支援のもと、互いにコミュニケーションをとりながら頑張っています。今後も、多重課題への対応や短期利用者の受持ちなど業務の拡大はありますが、一歩ずつ前に進んでいきましょう。

今後もセンター職員みなで見守り、支援していきます!

みなさん、これからも頑張ってください!

